近代アーチェリー運用の利点

* 散弾を初めとした鉛弾を使わないため外した弾の土壌への鉛弾のばら蒔きと違い、重金属による土壌汚染被害は起りえない。
* 同様に鉛弾を捕獲鳥獣に残すことは無いので、食肉とすることでの鉛の誤飲。といった事故も起こりえない。
* 取り扱いにおいて銃器のように誤って運用時以外でのチャンバーへの実弾挿入、誤射・暴発。と言った事故はアーチェリーでは考えらない。
* 弓を引く。と言った明確な物理動作を与えなければ射る事が出来ない為、銃器での非セーフティ状態での障害物との接触による暴発。といった事故も考えらない。
* つまり弓を引く。という動作を得ていない状態では周囲の第三者への恐怖感を与える影響は銃器に比べ低い。
* 銃弾とアーチェリーの矢とでは、例えコンパウンドボウのような強力な弓でも最大飛翔距離は銃器に比べ短い為、外した矢による流れ弾被害の可能性は遥かに低い物になる。
* 銃器のそれと比べ例えライフルと比べても携行携帯時の秘匿性が低い。
* 銃器弾丸に比べ矢はその単体では危険な飛翔速度能力を有しない為、保管・運搬・管理での事故は考えにくい。
* 突貫能力、ペネトレーションテストではフルメタルジャケットのライフル弾に比べてもその能力は高い。
* 入門するに於いて経済的負担は銃器に比べると比較的安価に始める事ができる。
* コンパウンドボウであれば30ポンド程度の張力でも十分な殺傷力を得られるので、人が思うほど体力的なハードルは弓を引く動作には要求されない。
* 殺傷力としてはブロッドヘッドを使用した場合、その突貫力とブレードにより切り裂く事で半矢状態での生存率は思うほど高い物では無い。急所を外した場合でも多くは失血死する。
* ボウハンティングのハンティングスタイルは多くは待ち伏せである。デコイや鹿笛、カモフラージュテントやツリーチェアで待機し、やってくる獣を捕獲する。  
  犬追いのように山の他の生物へのストレスが少なく、狩場を荒らす非効率なものにはならない。

アーチェリーを運用する事での問題点

* 外した場合の矢のロストが起き回収できなかった場合、人工物を自然に投棄してしまう事となる。多くはアルミやカーボンと言った素材なため、分解もしくは自然への悪影響のない物ではあるが、一定期間刃物の付いた人工物を残す事になる。地中に埋まるアルミシャフトなどは数年でさび付き白い泡状に分解される。
* 2の矢を射る間隔は銃器のそれに比べ当然時間がかかる。地上で大型獣を相手にする場合、１の矢を外し、獣が攻撃してきた場合の対処は日本ではナイフ等に頼る事になる。

ロスト矢への対処と半矢状態の獣の追跡における有効策

Breadcrumbという会社で開発されたbluetooth　beaconによる追跡機能を持ったノック（弓の弦を掛ける部品）が存在する。ある程度高価な物であるが、これを使うことで血の追跡を含め捜索することで半矢の獣へのトドメを容易にし、また野山に外した矢を残す確率は、極めて低い物となる。

<https://breadcrumbtech.com>

ロスト矢に関しては従来よりLED点灯するノックが存在し、その視認性は高く矢を失う可能性はそれだけでも十分低い。